

大学番号 33

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前伺い

横浜国立大学大学院 教育学研究科

高度教職実践専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人横浜国立大学

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部総務企画課

職名・氏名 キカクチュウセイカリチュウ 企画調整係長 シノ キヨシ 椎野 清

電話番号 045-339-3175

（夜間） 同上

e-mail kikaku.chosei@ynu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学研究科

| ＜高度教職実践専攻＞ | ページ |
|-------------------|-----|
| 1. 調査対象大学等の概要等 | 1 |
| 2. 授業科目の概要 | 5 |
| 3. 施設・設備の整備状況、経費 | 9 |
| 4. 既設大学等の状況 | 10 |
| 5. 教員組織の状況 | 13 |
| 6. 附帯事項等に対する履行状況等 | 44 |
| 7. その他全般的事項 | 45 |

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

(2) 大学名

横浜国立大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号

(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

| 職名 | 設置時 | 変更状況 | 備考 |
|------|----------------------------------|------|----|
| 学長 | (ウメハラ イズル) 梅原 出 (令和3年4月) | | |
| 研究科長 | (キムラ マサヒコ) 木村 昌彦 (令和2年4月) | | |
| 専攻長 | (クラモト テツオ) 倉本 哲男 (令和2年11月) | | |

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

| 調査対象学部等の名称（学位） | 学位又は学科の分野 | 設置時の計画 | | | | 学生募集の停止について | 備考 |
|---------------------------------|-----------|--------|------|----------|------|---------------|------|
| | | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | | |
| 教育学研究科 高度教職実践専攻 教職修士（専門職） | 教員養成関係 | 2年 | 60人 | 年次 0人 | 120人 | 新規入学者を 募集中 | 教育学部 |

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

| 区分 | 令和3年度 | | 令和4年度 | | 平均入学定員超過率 | 開設年度から報告年度までの平均入学定員 | 備考 |
|----------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------|-----------|---------------------|----|
| | 春季入学 | その他の学期 | 春季入学 | その他の学期 | | | |
| A 入学定員 | 60人 (-) [-] | 0人 () [] | 人 () [] | 人 () [] | 1.0倍 | - | |
| 志願者数 | 67 (-) [-] | 0 (-) [-] | () () [] [] | () () [] [] | | | |
| 受験者数 | 67 (-) [-] | 0 (-) [-] | () () [] [] | () () [] [] | | | |
| 合格者数 | 63 (-) [-] | 0 (-) [-] | () () [] [] | () () [] [] | | | |
| B 入学者数 | 60 (-) [-] | 0 (-) [-] | () () [] [] | () () [] [] | | | |
| 入学定員超過率 B/A | 1.0 | | | | | | |

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

| 学 年 | 令和3年度 | | 令和4年度 | | 備 考 |
|-----|------------------|-----------------|------------|------------|-----|
| | 春季入学 | その他の学期 | 春季入学 | その他の学期 | |
| 1年次 | 60 [-] (-) | 0 [-] (-) | [] () | [] () | |
| 2年次 | / | | [] () | [] () | |
| 計 | 60 [-] (-) | | [] () | | |

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

| 区分 対象年度 | 在学者数 (b) | 退学者数 (a) | 内訳 | | | 主な退学理由 (留学生の理由は[]書き) |
|------------|----------|----------|--------|--------|-----|--------------------------|
| | | | 入学した年度 | 退学者数 | | |
| | | | | うち留学生数 | | |
| 令和3年度 | 60 人 | 0 人 | 令和3年度 | 0 人 | 0 人 | |
| 令和4年度 | 人 | 人 | 令和3年度 | 人 | 人 | |
| | | | 令和4年度 | 人 | 人 | |
| 合計 | | 0 人 | | 0 人 | 0 人 | |

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

(教育学研究科 高度教職実践専攻)

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 | |
|-------------------|--------------------------|--------------------|------|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|--|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 共通科目 | 教育課程の編成・実施に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 2① | 2 | 3 | | | | | | | |
| | 教育課程の編成・実施に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 1① | 2 | | | | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 授業デザインの理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | EdTechを活用した授業の方法 | 1・2② | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 生徒指導、教育相談に関する領域 | 子どもの理解と支援 | 1・2② | 2 | 2 | 1 | | | | | | |
| | 生徒指導、教育相談に関する領域 | インクルーシブ教育の理論と実践(特) | 1② | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 学級経営、学校経営に関する領域 | 学校マネジメントとリーダーシップ | 1① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 学級経営・学級指導の理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 2 | | | | | | | |
| 学級経営、学校経営に関する領域 | 特別支援学校の組織マネジメント(特) | 1③ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 教育改革の現状と神奈川の教育事情 | 1・2① | 2 | 5 | | | | | | | | |
| 学校教育と教員の在り方に関する領域 | 特別支援教育コーディネーターの役割と実践(特) | 2④ | 2 | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 専門職としての教員の職能発達 | 2② | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 小計(13科目) | — | 8 | 18 | 16 | 6 | | | | | | |
| プログラム共通選択科目 | 「質実・能力」育成のための理論と実践 | 1③ | 2 | 2 | | | | | | | 兼2 | |
| | 学びと授業づくりの心理学 | 2④ | 2 | | | | | | | | 兼2 | |
| | 特別活動の理論と実践 | 2④ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼2 | |
| | 総合的な学習の理念とカリキュラム開発 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 | |
| | グローバル化に対応した教育 | 1⑤ | 2 | 3 | | | | | | | 兼2 | |
| | 人間社会と科学 | 1② | 2 | 3 | | | | | | | 兼2 | |
| | 情報モラルと著作権教育 | 1② | 2 | 2 | | | | | | | 兼2 | |
| | 消費者教育・ESDの理念と実践 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 | |
| | 幼児理解の理論と実践 | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 | |
| | 学校健康教育 | 2② | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 | |
| | 食教育の理論と実践 | 2⑤ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 | |
| | 教職キャリア開発の方法 | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | 2 | | | | | 兼1 | |
| | 小計(12科目) | — | 24 | 15 | 3 | | | | | | 兼5 | |
| 学校マネジメントプログラム選択科目 | 教育相談体制とカウンセリング | 2④ | 2 | 2 | 2 | | | | | | | |
| | スクールリーダーシップの事例研究 | 1⑤ | 2 | 6 | | | | | | | | |
| | レッスンスタディーとアクションリサーチ | 1⑤ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 行政研修の企画・運営 | 1④ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 学校運営と危機管理の実践 | 2③ | 2 | 4 | | | | | | | | |
| | 同僚性の構築に関する理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 課題フィールドワーク | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 学校マネジメントの高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 3 | 1 | | | | | | | |
| | 小計(8科目) | — | 16 | 7 | 3 | | | | | | 兼1 | |
| プログラム別選択科目 | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 | 1② | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼3 | |
| | 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・音韻) | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 | |
| | 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文字・アクセント) | 2⑤ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 | |
| | 国語の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼3 | |
| | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ | 1・2⑤ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼7 | |
| | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ | 1・2①~⑥ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 | |
| | 社会系教科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | 1 | | | | | | 兼1 | |
| | 生活科・総合の授業デザイン論と実践 | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 生活科・総合の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 数学の授業デザイン論と実践 | 1① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 数学の教材デザイン論と実践 | 2① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 数学の学習指導と評価 | 1・2① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 数学の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 理科の授業デザイン論と実践 | 1① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 理科の教材デザイン論と実践 | 2③ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 理科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 3 | | | | | | | | |
| | 音楽の授業デザイン論と実践 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 音楽の教材デザイン論と実践 | 2④ | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 音楽の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅰ | 1① | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 美術科の実践演習 | 1・2⑤ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 美術科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 保健体育の授業デザイン論と実践 | 1④ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 保健体育の教材デザイン論と実践 | 2① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 保健体育の学習指導と評価 | 1・2④ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 保健体育の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 4 | | | | | | | | |
| | 技術の授業デザイン論と実践 | 1① | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 技術の教材デザイン論と実践 | 2② | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 技術の実践演習 | 1・2④ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 技術の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ | 1① | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ | 2② | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 家庭科の学習指導と評価 | 1・2③ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 家庭科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 3 | | | | | | | | |
| | 英語科の授業デザイン論と実践 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 英語科の教材デザイン論と実践 | 2① | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 英語科の学習指導と評価 | 1・2① | 2 | 1 | | | | | | | | |
| | 英語科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 特別支援教育と評価(特) | 1③ | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 特別支援教育実践演習Ⅰ(特) | 1・2①~④ | 2 | 3 | 2 | | | | | | | |
| | 特別支援教育実践演習Ⅱ(特) | 1・2⑤~⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | | | |
| | 特別支援教育の内容と実践A(特) | 1② | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | 特別支援教育の内容と実践B(特) | 1② | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 特別支援教育の内容と実践C(特) | 1④ | 2 | 1 | 1 | | | | | | | |
| | 特別支援教育高度教育研究方法論(特) | 2①~⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | | | |
| | 小計(46科目) | — | 92 | 26 | 9 | | | | | | 兼28 | |

【令和3年度】

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 |
|-------------------|--------------------------|--------------------|------|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | |
| 共通科目 | 教育課程の編成・実施に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 2① | 2 | 3 | | | | | | |
| | 教育課程の編成・実施に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 1① | 2 | | | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 授業デザインの理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 特別支援教育の授業デザイン(特) | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | |
| | 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | EdTechを活用した授業の方法 | 1・2② | 2 | 2 | | | | | | |
| | 生徒指導、教育相談に関する領域 | 子どもの理解と支援 | 1・2② | 2 | 2 | 1 | | | | | |
| | 生徒指導、教育相談に関する領域 | インクルーシブ教育の理論と実践(特) | 1② | 2 | 1 | 1 | | | | | |
| 学級経営、学校経営に関する領域 | 学校マネジメントとリーダーシップ | 1① | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 学級経営・学級指導の理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 2 | | | | | | |
| 学級経営、学校経営に関する領域 | 特別支援学校の組織マネジメント(特) | 1③ | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 教育改革の現状と神奈川の教育事情 | 1・2① | 2 | 5 | | | | | | | |
| 学校教育と教員の在り方に関する領域 | 特別支援教育コーディネーターの役割と実践(特) | 2④ | 2 | 2 | 1 | | | | | | |
| | 専門職としての教員の職能発達 | 2② | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 小計(13科目) | — | 8 | 18 | 16 | 6 | | | | | |
| プログラム共通選択科目 | 「質実・能力」育成のための理論と実践 | 1③ | 2 | 2 | | | | | | | 兼2 |
| | 学びと授業づくりの心理学 | 2④ | 2 | | | | | | | | 兼2 |
| | 特別活動の理論と実践 | 2④ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼2 |
| | 総合的な学習の理念とカリキュラム開発 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 |
| | グローバル化に対応した教育 | 1⑤ | 2 | 3 | | | | | | | 兼2 |
| | 人間社会と科学 | 1② | 2 | 3 | | | | | | | 兼2 |
| | 情報モラルと著作権教育 | 1② | 2 | 2 | | | | | | | 兼2 |
| | 消費者教育・ESDの理念と実践 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 |
| | 幼児理解の理論と実践 | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 |
| | 学校健康教育 | 2② | 2 | 1 | | | | | | | 兼2 |
| | 食教育の理論と実践 | 2⑤ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 |
| | 教職キャリア開発の方法 | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | 2 | | | | | 兼1 |
| | 小計(12科目) | — | 24 | 15 | 3 | | | | | | 兼5 |
| 学校マネジメントプログラム選択科目 | 教育相談体制とカウンセリング | 2④ | 2 | 2 | 2 | | | | | | |
| | スクールリーダーシップの事例研究 | 1⑤ | 2 | 6 | | | | | | | |
| | レッスンスタディーとアクションリサーチ | 1⑤ | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 行政研修の企画・運営 | 1④ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 学校運営と危機管理の実践 | 2③ | 2 | 4 | | | | | | | |
| | 同僚性の構築に関する理論と実践 | 1① | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 課題フィールドワーク | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 学校マネジメントの高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 3 | 1 | | | | | | |
| | 小計(9科目) | — | 18 | 7 | 3 | | | | | | 兼1 |
| プログラム別選択科目 | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 | 1② | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼3 |
| | 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・音韻) | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 |
| | 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文字・アクセント) | 2⑤ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 |
| | 国語の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼3 |
| | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ | 1・2⑤ | 2 | 1 | 1 | | | | | | 兼7 |
| | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ | 1・2①~⑥ | 2 | 1 | | | | | | | 兼1 |
| | 社会系教科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | 1 | | | | | | 兼1 |
| | 生活科・総合の授業デザイン論と実践 | 1・2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 生活科・総合の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 数学の授業デザイン論と実践 | 1① | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 数学の教材デザイン論と実践 | 2① | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 数学の学習指導と評価 | 1・2① | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 数学の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 理科の授業デザイン論と実践 | 1① | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 理科の教材デザイン論と実践 | 2③ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 理科の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 3 | | | | | | | |
| | 音楽の授業デザイン論と実践 | 1④ | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 音楽の教材デザイン論と実践 | 2④ | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| | 音楽の高度教育研究方法論 | 2①~⑥ | 2 | 2 | | | | | | | |
| | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅰ | 1① | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ | 2④ | 2 | 1 | | | | | | | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | 兼任・兼任 |
|-------------------|-------------------------|--------|-----|----|----|----------|-----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教員 | 准教授 | 講師 | 助教 | |
| 附属学校教員特別プログラム | 教育実習指導の実践研究 | 1①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 実践研究のマネジメントⅠ | 2①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 実践研究のマネジメントⅡ | 2①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 学校研究のための教材研究 | 1①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 学校研究のためのカリキュラム開発 | 2①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 学校研究のための授業研究 | 2①～⑥ | 2 | 27 | 9 | | | | | |
| | 特別支援学校教育実習指導の実践研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のための教材研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のための授業研究(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| 小計(12科目) | — | 24 | 31 | 11 | | | | | | |
| 学校実習科目 | 教育課題発見実地研究 | 1①～③ | 2 | 10 | 2 | | | | | |
| | 教育課題解決実地研究 | 2①～③ | 2 | 10 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅰ | 1①～⑥ | 5 | 24 | 7 | | | | | |
| | 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ(特) | 1①～⑥ | 5 | 3 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅱ | 2①～⑥ | 5 | 24 | 7 | | | | | |
| | 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ(特) | 2①～⑥ | 5 | 3 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅲ | 1・2①～⑥ | 6 | 5 | 5 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅳ | 1・2①～⑥ | 8 | 5 | 5 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅴ | 1・2①～⑥ | 10 | 5 | 5 | | | | | |
| | 授業改善実地研究 | 1①～⑥ | 2 | 24 | 7 | | | | | |
| 特別支援教育授業改善実地研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | | |
| 小計(11科目) | — | 52 | 34 | 11 | | | | | | |
| 課題研究 | 学校課題解決研究A | 1①～③ | 2 | 28 | 9 | | | | | |
| | 学校課題解決研究B | 1④～⑥ | 2 | 28 | 9 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅰ | 2①～③ | 2 | 28 | 9 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅱ | 2④～⑥ | 2 | 28 | 9 | | | | | |
| | 学校課題解決研究A(特別支援教育)(特) | 1①～③ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究B(特別支援教育)(特) | 1④～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育)(特) | 2①～③ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育)(特) | 2④～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| 小計(8科目) | — | 16 | 31 | 11 | | | | | | |
| 合計(110科目) | — | 8 | 242 | 34 | 14 | | | | | 兼28 |

修了要件及び履修方法

標準修業年限は、現職教員学生及び学部新卒学生ともに2年間とする。
ただし、県内教育委員会からの強い要望により現職教員学生の履修の便宜等に配慮し、学校マネジメントプログラムの現職教育学生には短期履修(1年)を認める。

履修登録の上限は、年間で40単位とする。
修了要件は、以下のとおりとする。

○学校マネジメントプログラム
共通科目(16単位)、プログラム共通選択科目(4単位以上)、学校マネジメントプログラム選択科目(10単位以上)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については6単位まで免除)、課題研究(4単位以上)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は40単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、各科目の最低履修単位数の合計(44単位(学校実習単位の免除が認められた者は38単位))を超える2単位分については、プログラム共通選択科目、プログラム別選択科目、課題研究の中から選択履修する。

○教科教育・特別支援教育プログラム
共通科目(16単位)、プログラム共通選択科目(4単位以上)、教科教育・特別支援教育プログラム選択科目(6単位以上)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については8単位まで免除)、課題研究(4単位以上)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は38単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、各科目の最低履修単位数の合計(40単位(学校実習単位の免除が認められた者は32単位))を超える6単位分については、プログラム共通選択科目、プログラム別選択科目、課題研究の中から選択履修する。
また、原則として、特別支援学校教諭専修免許状を主として取得する学生は、各科目区分において(特)が付いた科目を選択する。

○附属学校教員特別プログラム
共通科目(16単位)、附属学校教員特別プログラム専門科目(12単位)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については10単位まで免除)、課題研究(8単位)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は36単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、附属学校教員特別プログラム専門科目(12単位)のうち、一部をプログラム共通選択科目及びプログラム別選択科目から履修することも可能とする。
また、原則として、特別支援学校教諭専修免許状を主として取得する学生は、各科目区分において(特)が付いた科目を選択する。

※履修上の補足事項
○共通科目:
共通科目のうち、神奈川県からの強い要望により、地域の教育課題についての理解を深め、実践力を培うことを目的とした科目である「EdTechを活用した授業の方法」「インクルーシブ教育の理論と課題」「教育改革の現状と神奈川の教育事情」の3科目を「神奈川の教育課題」の科目として設定し、必修科目とする。
また、『教育課程の編成・実施に関する領域』、『教科等の実践的な指導方法に関する領域』、『生徒指導、教育相談に関する事項』、『学級経営、学校経営に関する領域』、『学校教育と教員の在り方に関する領域』については、上述の3科目を除き、各領域からそれぞれ2単位以上修得する。

○附属学校教員特別プログラム専門科目:
附属学校教員特別プログラム専門科目は、附属学校教員特別プログラムの者のみ履修することができる。

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | 兼任・兼任 |
|-------------------|-------------------------|--------|-----|----|----|----------|-----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教員 | 准教授 | 講師 | 助教 | |
| 附属学校教員特別プログラム | 教育実習指導の実践研究 | 1①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 実践研究のマネジメントⅠ | 2①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 実践研究のマネジメントⅡ | 2①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 学校研究のための教材研究 | 1①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 学校研究のためのカリキュラム開発 | 2①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 学校研究のための授業研究 | 2①～⑥ | 2 | 30 | 6 | | | | | |
| | 特別支援学校教育実習指導の実践研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のための教材研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| | 特別支援学校研究のための授業研究(特) | 2①～⑥ | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| 小計(12科目) | — | 24 | 34 | 8 | | | | | | |
| 学校実習科目 | 教育課題発見実地研究 | 1①～③ | 2 | 10 | 2 | | | | | |
| | 教育課題解決実地研究 | 2①～③ | 2 | 10 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅰ | 1①～⑥ | 5 | 27 | 4 | | | | | |
| | 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ(特) | 1①～⑥ | 5 | 3 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅱ(未開講) | 2①～⑥ | 5 | 27 | 4 | | | | | |
| | 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ(特) | 2①～⑥ | 5 | 3 | 2 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅲ(未開講) | 1・2①～⑥ | 6 | 5 | 1 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅳ(未開講) | 1・2①～⑥ | 8 | 5 | 1 | | | | | |
| | 教職専門実地研究Ⅴ | 1・2①～⑥ | 10 | 5 | 1 | | | | | |
| | 授業改善実地研究 | 1①～⑥ | 2 | 27 | 4 | | | | | |
| 特別支援教育授業改善実地研究(特) | 1①～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | | |
| 小計(11科目) | — | 52 | 34 | 12 | | | | | | |
| 課題研究 | 学校課題解決研究A | 1①～③ | 2 | 31 | 6 | | | | | |
| | 学校課題解決研究B | 1④～⑥ | 2 | 31 | 6 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅰ | 2①～③ | 2 | 31 | 6 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅱ | 2④～⑥ | 2 | 31 | 6 | | | | | |
| | 学校課題解決研究A(特別支援教育)(特) | 1①～③ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究B(特別支援教育)(特) | 1④～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育)(特) | 2①～③ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| | 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育)(特) | 2④～⑥ | 2 | 3 | 2 | | | | | |
| 小計(8科目) | — | 16 | 34 | 8 | | | | | | |
| 合計(111科目) | — | 8 | 244 | 37 | 12 | | | | | 兼32 |

修了要件及び履修方法

標準修業年限は、現職教員学生及び学部新卒学生ともに2年間とする。
ただし、県内教育委員会からの強い要望により現職教員学生の履修の便宜等に配慮し、学校マネジメントプログラムの現職教育学生には短期履修(1年)を認める。

履修登録の上限は、年間で40単位とする。
修了要件は、以下のとおりとする。

○学校マネジメントプログラム
共通科目(16単位)、プログラム共通選択科目(4単位以上)、学校マネジメントプログラム選択科目(10単位以上)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については6単位まで免除)、課題研究(4単位以上)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は40単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、各科目の最低履修単位数の合計(44単位(学校実習単位の免除が認められた者は38単位))を超える2単位分については、プログラム共通選択科目、プログラム別選択科目、課題研究の中から選択履修する。

○教科教育・特別支援教育プログラム
共通科目(16単位)、プログラム共通選択科目(4単位以上)、教科教育・特別支援教育プログラム選択科目(6単位以上)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については8単位まで免除)、課題研究(4単位以上)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は38単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、各科目の最低履修単位数の合計(40単位(学校実習単位の免除が認められた者は32単位))を超える6単位分については、プログラム共通選択科目、プログラム別選択科目、課題研究の中から選択履修する。
また、原則として、特別支援学校教諭専修免許状を主として取得する学生は、各科目区分において(特)が付いた科目を選択する。

○附属学校教員特別プログラム
共通科目(16単位)、附属学校教員特別プログラム専門科目(12単位)、学校実習科目(10単位、教職経験を有する者で学校実習科目を履修したものとみなす教職経験をもつ者については10単位まで免除)、課題研究(8単位)、合計46単位以上(学校実習単位の免除が認められた者は36単位以上)修得し、GPAの基準を満たしていることとする。なお、附属学校教員特別プログラム専門科目(12単位)のうち、一部をプログラム共通選択科目及びプログラム別選択科目から履修することも可能とする。
また、原則として、特別支援学校教諭専修免許状を主として取得する学生は、各科目区分において(特)が付いた科目を選択する。

※履修上の補足事項
○共通科目:
共通科目のうち、神奈川県からの強い要望により、地域の教育課題についての理解を深め、実践力を培うことを目的とした科目である「EdTechを活用した授業の方法」「インクルーシブ教育の理論と課題」「教育改革の現状と神奈川の教育事情」の3科目を「神奈川の教育課題」の科目として設定し、必修科目とする。
また、『教育課程の編成・実施に関する領域』、『教科等の実践的な指導方法に関する領域』、『生徒指導、教育相談に関する事項』、『学級経営、学校経営に関する領域』、『学校教育と教員の在り方に関する領域』については、上述の3科目を除き、各領域からそれぞれ2単位以上修得する。

○附属学校教員特別プログラム専門科目:
附属学校教員特別プログラム専門科目は、附属学校教員特別プログラムの者のみ履修することができる。

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | 兼任・兼任 |
|------|---------|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | 兼任・兼任 |
|------|---------|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | |

(1) ①-②授業科目表に関する変更内容

| 【令和3年度】 | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 【新規科目の追加】 | | | | | | | | | | |
| ・カリキュラム充実のため以下の科目を追加 「学校のリーガルマインド」 | | | | | | | | | | |
| 【専任教員等の配置の変更】 | | | | | | | | | | |
| ・専任教員の就任により、以下の科目の教員配置を変更 「教職専門実地研究Ⅲ」「教職専門実地研究Ⅴ」の准教授を1名増 | | | | | | | | | | |
| ・専任教員の昇任により、以下の科目の専任教員配置を変更 「音楽の教材デザイン論と実践」を「教授1」「准教授1」から「教授2」へ変更 「技術の授業デザイン論と実践」を「准教授1」から「教授1」へ変更 「技術の実践演習」「技術の高度教育研究方法論」を「准教授2」から「教授1」「准教授1」へ変更 「英語科の授業デザイン論と実践」を「准教授1」から「教授1」へ変更 「英語科の高度教育研究方法論」を「教授1」「准教授1」から「教授2」へ変更 「教育実習指導の実践研究」「実践研究のマネジメントⅠ」「実践研究のマネジメントⅡ」「学校研究のための教材研究」「学校研究のためのカリキュラム開発」「学校研究のための授業研究」を「教授27」「准教授9」から「教授30」「准教授6」へ変更 「教職専門実地研究Ⅰ」「教職専門実地研究Ⅱ」を「教授24」「准教授7」から「教授27」「准教授4」へ変更 「授業改善実地研究」を「教授24」「准教授7」から「教授27」「准教授4」へ変更 「学校課題解決研究A」「学校課題解決研究B」「学校課題解決研究Ⅰ」「学校課題解決研究Ⅱ」を「教授28」「准教授9」から「教授31」「准教授6」へ変更 | | | | | | | | | | |
| ・兼任教員の就任により、以下の科目の兼任教員配置を変更 「音楽の高度教育研究方法論」「美術科の高度教育研究方法論」「保健体育の高度教育研究方法論」を「兼0」から「兼1」へ変更 「教職専門実地研究Ⅳ」を「兼0」から「兼4」へ変更 「教職専門実地研究Ⅴ」を「兼0」から「兼3」へ変更 | | | | | | | | | | |
| 【開講タームの変更】 | | | | | | | | | | |
| ・教育効果を高めるため、以下の科目のタームを変更 「インクルーシブ教育の理論と課題」を②から③、「学級経営・学級指導の理論と実践」を①から④、「特別支援学校の組織マネジメント」を③から①、「教育改革の現状と神奈川の教育事情」を①から②、「特別活動の理論と実践」を④から②、「人間社会と科学」を②から①～③、「食教育の理論と実践」を⑤から④、「生活科・総合の授業デザイン論と実践」を①～③から②、「数学の授業デザイン論と実践」を①から⑤、「数学の教材デザイン論と実践」を①から④、「理科の授業デザイン論と実践」を①から②、「理科の教材デザイン論と実践」を③から①～③、「美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ」を④から② | | | | | | | | | | |

- (注) ・ 2(1) ①-② 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

| 設置時の計画 | | | | | 変更状況 | | | | 備考 |
|--------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|--|----|
| 必修 | 選択 | 自由 | 計(A) | 必修 | 選択 | 自由 | 計 | | |
| 4 科目 | 106 科目 | 0 科目 | 110 科目 | 4 科目 | 107 科目 | 0 科目 | 111 科目 | | |
| | | | | [0] | [1] | [0] | [1] | | |

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 未開講の理由, 代替措置の有無 |
|----|-----------|-----|--------|-------|-------|-----------------|
| 1 | 教職専門実地研究Ⅲ | 6 | 1・2①～⑥ | 専門 | 選択 | 履修対象者がいないため |
| 2 | 教職専門実地研究Ⅴ | 10 | 1・2①～⑥ | 専門 | 選択 | 履修対象者がいないため |

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 廃止の理由, 代替措置の有無 |
|----|-------|-----|------|-------|-------|----------------|
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

履修対象者がいないため、時間割表に「未開講」と記載し学生向けに周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{110} = \boxed{1.81}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

| 区 分 | | 内 容 | | | | 備考 | | | |
|---------------------------------|--|--|--|--|------------------------|----------------------|----------------------|--|--|
| (1) 校 地 等 | 区 分 | 専 用 | 共 用 | 共用する他の 学校等の専用 | 計 | | | | |
| | 校 舎 敷 地 | 329,163 m ² | — m ² | — m ² | 329,163 m ² | | | | |
| | 運 動 場 用 地 | 89,916 m ² | — m ² | — m ² | 89,916 m ² | | | | |
| | 小 計 | 419,079 m ² | — m ² | — m ² | 419,079 m ² | | | | |
| | そ の 他 | 244,135 m ² | — m ² | — m ² | 244,135 m ² | | | | |
| | 合 計 | 663,214 m ² | — m ² | — m ² | 663,214 m ² | | | | |
| (2) 校 舎 | 専 用 | 共 用 | 共用する他の 学校等の専用 | 計 | | | | | |
| | 175,737 m ² (175,737 m ²) | — m ² (— m ²) | — m ² (— m ²) | 175,737 m ² (175,737 m ²) | | | | | |
| (3) 教 室 等 | 講 義 室 | 演 習 室 | 実験実習室 | 情報処理学習施設 | 語学学習施設 | 大学全体 改修等による増減 (3) | | | |
| | 116 115 室 | 175 169 室 | 649 668 室 | 25 室 (補助職員 7 10 人) | 10 室 (補助職員 0 人) | | | | |
| (4) 専任教員研究室 | 新設学部等の名称 | | 室 数 | | | | | | |
| | 教育学研究科 高度教職実践専攻 | | 45 室 | | | | | | |
| (5) 図 書 ・ 設 備 | 新設学部等の 名称 | 図 書 〔うち外国書〕 冊 | 学術雑誌 〔うち外国書〕 種 | 電子ジャーナル 〔うち外国書〕 | 視聴覚資料 点 | 機械・器具 点 | 標 本 点 | 部局単位での特定が不能 なため、大学全体の数 購入、廃棄等による増 減 (3) | |
| | 先進実践学環 | 1,331,422 - [506,603] 1,333,909 [506,319] | 35,469 [20,906] 35,490 [20,962] | 13,326 [13,318] 13,380 [13,373] | 9156 9,197 | 4355 4,564 | 40 | | |
| | | (1,331,422 - [506,603] 1,333,909 [506,319]) | (35,469 [20,906] 35,490 [20,962]) | (13,326 [13,318] 13,380 [13,373]) | (9,156 9,197) | (4,355 4,564) | (40) | | |
| | 計 | 1,331,422 - [506,603] 1,333,909 [506,319] | 35,469 [20,906] 35,490 [20,962] | 13,326 [13,318] 13,380 [13,373] | 9156 9,197 | 4355 4,564 | 40 | | |
| | | (1,331,422 - [506,603] 1,333,909 [506,319]) | (35,469 [20,906] 35,490 [20,962]) | (13,326 [13,318] 13,380 [13,373]) | (9,156 9,197) | (4,355 4,564) | (40) | | |
| (6) 図 書 館 | 面 積 | | 閲 覧 座 席 数 | | 収 納 可 能 冊 数 | | | | |
| | 15,463 m ² | | 1,472 1,454 席 | | 1,309,125 冊 | | 大学全体 改修等による増減 (3) | | |
| (7) 体 育 館 | 面 積 | | 体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要 | | | | | | |
| | 3,882 m ² | | 野 球 場 | | テニスコートほか | | 大学全体 | | |
| (8) 経費の見 積り及び 維持方法 の概要 | 経費 の見 積り 子エ ィ 納付金 以外 の維持 方法の 概要 | 区 分 | 開設年度 | 完成年度 | 区 分 | 開設前年度 | 開設年度 | 完成年度 | |
| | | 教員1人当り研究費等 | 千円 | 千円 | 図書購入費 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 共同研究費等 | 千円 | 千円 | 設備購入費 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 | 第5年次 | 第6年次 | | |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | | |

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

| 大学 の 名 称 | 横浜国立大学 | | | | | | 学生募集停止学科数 | 24 | 平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数 | 2 | 備 考 |
|--------------|--------|------|---------------|-------|-----------|-----------|--------------|-------------------|----------------------|----------------------|----------------------------|
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 平均入学定員超過率 | 令和3年度入学定員超過率 | 定員変更年度(AC期間の学科のみ) | 開設年度 | 所在地 | |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | 倍 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| 教育学部 | | 200 | - | 800 | | 1.04 | 1.05 | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号 | 令和3年度名称変更 定員変更 (△30) |
| 学校教員養成課程 | 4 | 200 | - | 800 | 学士(教育) | 1.04 | 1.05 | - | 平成10年度 | | |
| 教育人間科学部 | | - | - | - | | - | - | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号 | 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 |
| 学校教育課程 | 4 | - | - | - | 学士(教育) | - | - | - | 平成9年度 | | |
| 人間文化課程 | 4 | - | - | - | 学士(教養) | - | - | - | 平成23年度 | | |
| 経済学部 | | 258 | 3年次15 | 1,062 | | 1.05 | 1.00 | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号 | 定員変更 (20) |
| 経済学科 | 4 | 258 | 3年次15 | 1,062 | 学士(経済学) | 1.05 | 1.00 | - | 平成29年度 | | |
| 経済システム学科 | 4 | - | - | - | 学士(経済学) | - | - | - | 平成16年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 国際経済学科 | 4 | - | - | - | 学士(経済学) | - | - | - | 平成16年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 経営学部 | | 297 | - | 1,188 | | 1.02 | 1.00 | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号 | 定員変更 (10) |
| 経営学科 | 4 | 297 | - | 1,188 | 学士(経営学) | 1.02 | 1.00 | - | 平成29年度 | | |
| 経営学科(昼間主コース) | 4 | - | - | - | 学士(経営学) | - | - | - | 昭和42年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 経営学科(夜間主コース) | 4 | - | - | - | 学士(経営学) | - | - | - | 平成3年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 会計・情報学科 | 4 | - | - | - | 学士(経営学) | - | - | - | 平成3年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 経営システム科学科 | 4 | - | - | - | 学士(経営学) | - | - | - | 平成3年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 国際経営学科 | 4 | - | - | - | 学士(経営学) | - | - | - | 平成3年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 理工学部 | | 659 | - | 2,636 | | 1.00 | 1.02 | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号 | 平成29年学生募集停止 平成29年学生募集停止 |
| 機械・材料・海洋系学科 | 4 | 185 | - | 740 | 学士(工学) | 1.00 | 1.03 | - | 平成29年度 | | |
| 化学・生命系学科 | 4 | 187 | - | 748 | 学士(理学、工学) | 1.01 | 1.02 | - | 平成23年度 | | |
| 数物・電子情報系学科 | 4 | 287 | - | 1,148 | 学士(理学、工学) | 1.01 | 1.02 | - | 平成23年度 | | |
| 機械工学・材料系学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | - | - | 平成23年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 建築都市・環境系学科 | 4 | - | - | - | 学士(理学、工学) | - | - | - | 平成23年度 | 平成29年学生募集停止 | |
| 都市科学部 | | 248 | 2年次2 3年次5 | 1,008 | | 0.99 | 0.98 | - | | 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号 | |
| 都市社会共生学科 | 4 | 74 | - | 296 | 学士(学術) | 0.99 | 1.00 | - | 平成29年度 | | |
| 建築学科 | 4 | 70 | 2年次2 | 286 | 学士(工学) | 0.94 | 0.91 | - | 平成29年度 | | |
| 都市基盤学科 | 4 | 48 | 3年次5 | 202 | 学士(工学) | 1.01 | 1.00 | - | 平成29年度 | | |
| 環境リスク共生学科 | 4 | 56 | - | 224 | 学士(環境学) | 1.02 | 1.03 | - | 平成29年度 | | |
| 大学全体 | - | 1662 | 2年次2 3年次20 | 6,694 | - | - | - | - | - | - | |

| | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-----|---|-------|--------|------|------|---|-------|------------------------------|----------------|
| 先進実践学環 | 2 | 42 | - | 84 | 修士（学術） | 0.88 | 0.88 | - | 令和3年度 | 神奈川県横浜市 保土ヶ谷区常盤 台79番8号 | 研究科等連携課程実施基本組織 |
| 大学院全体 | - | 987 | - | 2,090 | - | - | - | - | - | - | - |

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 倉本 哲男 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント 学校マネジメントとリーダーシップ スクールリーダーシップの事例研究 レッスンスタディーとアクションリサーチ 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専 | 教授 | 野中 陽一 <令和3年4月> |
| | | EdTechを活用した授業の方法 グローバル化に対応した教育 情報モラルと著作権教育 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ |

【令和3年度】

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 倉本 哲男 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント 学校マネジメントとリーダーシップ スクールリーダーシップの事例研究 レッスンスタディーとアクションリサーチ 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専 | 教授 | 野中 陽一 <令和3年4月> |
| | | EdTechを活用した授業の方法 グローバル化に対応した教育 情報モラルと著作権教育 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 准教授 | 脇本 健弘 <令和3年4月> |
| | | 専門職としての教員の職能発達 教職キャリア開発の方法 同僚性の構築に関する理論と実践 課題フィールドワーク 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 青山 浩之 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・言語) 国語の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 准教授 | 脇本 健弘 <令和3年4月> |
| | | 専門職としての教員の職能発達 教職キャリア開発の方法 同僚性の構築に関する理論と実践 課題フィールドワーク 学校マネジメントの高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 青山 浩之 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・言語) 国語の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 池田 敏和 <令和3年4月> |
| | | 数学の授業デザイン論と実践 数学の教材デザイン論と実践 数学の学習指導と評価 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 泉 真由子 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 インクルーシブ教育の理論と課題 学校運営と危機管理の実際 学校マネジメントの高度教育研究方法論 特別支援教育の内容と実践A 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 池田 敏和 <令和3年4月> |
| | | 数学の授業デザイン論と実践 数学の教材デザイン論と実践 数学の学習指導と評価 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 泉 真由子 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 インクルーシブ教育の理論と課題 学校運営と危機管理の実際 学校マネジメントの高度教育研究方法論 特別支援教育の内容と実践A 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 伊藤 信之 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の学習指導と評価 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 梅澤 秋久 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の授業デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 伊藤 信之 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の学習指導と評価 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 梅澤 秋久 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の授業デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 小川 昌文 <令和3年4月> |
| | | 音楽の授業デザイン論と実践 音楽の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 加藤 圭司 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の授業デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 小川 昌文 <令和3年4月> |
| | | 音楽の授業デザイン論と実践 音楽の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 加藤 圭司 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の授業デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 木村 昌彦 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の教材デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 金馬 国晴 <令和3年4月> |
| | | 総合的な学習の理念とカリキュラム開発 生活科・総合の授業デザイン論と実践 生活科・総合の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 木村 昌彦 <令和3年4月> |
| | | 保健体育の教材デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 金馬 国晴 <令和3年4月> |
| | | 総合的な学習の理念とカリキュラム開発 生活科・総合の授業デザイン論と実践 生活科・総合の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 軍司 敦子 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践A 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |
| 専他 | 教授 | 小池 研二 <令和3年4月> |
| | | グローバル化に対応した教育 美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ 美術科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 軍司 敦子 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践A 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |
| 専他 | 教授 | 小池 研二 <令和3年4月> |
| | | グローバル化に対応した教育 美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ 美術科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 河野 克典 <令和3年4月> |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 齊田 智里 <令和3年4月> |
| | | 英語科の学習指導と評価 英語科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 河野 克典 <令和3年4月> |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 齊田 智里 <令和3年4月> |
| | | 英語科の学習指導と評価 英語科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 杉山 久仁子 <令和3年4月> |
| | | 食教育の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 園田(正木) 菜摘 <令和3年4月> |
| | | 幼児理解の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 杉山 久仁子 <令和3年4月> |
| | | 食教育の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 園田(正木) 菜摘 <令和3年4月> |
| | | 幼児理解の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 高木 まさき <令和3年4月> |
| | | 授業デザインの理論と実践 「資質・能力」育成のための理論と実践 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 徳永 亜希雄 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育のカリキュラムマネジメント 特別支援教育と評価 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践C 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 高木 まさき <令和3年4月> |
| | | 授業デザインの理論と実践 「資質・能力」育成のための理論と実践 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 徳永 亜希雄 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育のカリキュラムマネジメント 特別支援教育と評価 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践C 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 中嶋 俊夫 <令和3年4月> |
| | | 音楽の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 平島 由美子 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 中嶋 俊夫 <令和3年4月> |
| | | 音楽の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 平島 由美子 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 堀内 かおる <令和3年4月> |
| | | グローバル化に対応した教育 家庭科の学習指導と評価 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 松葉口 玲子 <令和3年4月> |
| | | 消費者教育・ESDの理念と実践 生活科・総合の授業デザイン論と実践 生活科・総合の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 堀内 かおる <令和3年4月> |
| | | グローバル化に対応した教育 家庭科の学習指導と評価 家庭科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 松葉口 玲子 <令和3年4月> |
| | | 消費者教育・ESDの理念と実践 生活科・総合の授業デザイン論と実践 生活科・総合の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 物部 博文 <令和3年4月> |
| | | 学校健康教育 保健体育の教材デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 両角 達男 <令和3年4月> |
| | | 数学の授業デザイン論と実践 数学の教材デザイン論と実践 数学の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 物部 博文 <令和3年4月> |
| | | 学校健康教育 保健体育の教材デザイン論と実践 保健体育の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 両角 達男 <令和3年4月> |
| | | 数学の授業デザイン論と実践 数学の教材デザイン論と実践 数学の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 山本 光 <令和3年4月> |
| | | EdTechを活用した授業の方法 情報モラルと著作権教育 数学の学習指導と評価 数学の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 和田 一郎 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の授業デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 山本 光 <令和3年4月> |
| | | EdTechを活用した授業の方法 情報モラルと著作権教育 数学の学習指導と評価 数学の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 和田 一郎 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の授業デザイン論と実践 理科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 渡部 匡隆 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育の授業デザイン 特別支援学校の組織マネジメント 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践B 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |
| 専他 | 准教授 | 石田 喜美 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文学・テキスト) 国語の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 渡部 匡隆 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育の授業デザイン 特別支援学校の組織マネジメント 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践B 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |
| 専他 | 准教授 | 石田 喜美 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文学・テキスト) 国語の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 尾島 司郎 <令和3年4月> |
| | | 英語科の授業デザイン論と実践 英語科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 雁丸 新一 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育と評価 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践C 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 尾島 司郎 <令和3年4月> |
| | | 英語科の授業デザイン論と実践 英語科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 雁丸 新一 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育と評価 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践C 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A(特別支援教育) 学校課題解決研究B(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ(特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ(特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 鬼藤 明仁 <令和3年4月> |
| | | 技術の授業デザイン論と実践 技術の実践演習 技術の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 後藤 隆章 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育の授業デザイン 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践B 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A (特別支援教育) 学校課題解決研究B (特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ (特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ (特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 教授 | 鬼藤 明仁 <令和3年4月> |
| | | 技術の授業デザイン論と実践 技術の実践演習 技術の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 後藤 隆章 <令和3年4月> |
| | | 特別支援教育の授業デザイン 特別支援教育実践演習Ⅰ 特別支援教育実践演習Ⅱ 特別支援教育の内容と実践B 特別支援教育高度教育研究方法論 特別支援学校教育実習指導の実践研究 特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ 特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ 特別支援学校研究のための教材研究 特別支援学校研究のためのカリキュラム開発 特別支援学校研究のための授業研究 特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ 特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ 特別支援教育授業改善実地研究 学校課題解決研究A (特別支援教育) 学校課題解決研究B (特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅰ (特別支援教育) 学校課題解決研究Ⅱ (特別支援教育) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 小林 大介 <令和3年4月> |
| | | 技術の教材デザイン論と実践 技術の実践演習 技術の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 島田 広 <令和3年4月> |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 小林 大介 <令和3年4月> |
| | | 技術の教材デザイン論と実践 技術の実践演習 技術の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 教授 | 島田 広 <令和3年4月> |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 鈴木 允 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ 社会系教科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 原口 健一 <令和3年4月> |
| | | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅰ 美術科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専他 | 准教授 | 鈴木 允 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ 社会系教科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 専他 | 准教授 | 原口 健一 <令和3年4月> |
| | | 美術科の教材デザイン論と実践Ⅰ 美術科の高度教育研究方法論 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 授業改善実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 実専 | 教授 | 石塚 等 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント 教育改革の現状と神奈川の教育事情 「資質・能力」育成のための理論と実践 行政研修の企画・運営 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 実専 | 教授 | 小松 典子 <令和3年4月> |
| | | 教育改革の現状と神奈川の教育事情 専門職としての教員の職能発達 スクールリーダーシップの事例研究 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 実専 | 教授 | 石塚 等 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント 教育改革の現状と神奈川の教育事情 「資質・能力」育成のための理論と実践 行政研修の企画・運営 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 実専 | 教授 | 小松 典子 <令和3年4月> |
| | | 教育改革の現状と神奈川の教育事情 専門職としての教員の職能発達 スクールリーダーシップの事例研究 学校運営と危機管理の実際 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 実専 | 教授 | 松原 雅俊 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント スクールリーダーシップの事例研究 行政研修の企画・運営 同僚性の構築に関する理論と実践 美術科の実践演習 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 実専 | 准教授 | 藤原 寿幸 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 学級経営・学級指導の理論と実践 特別活動の理論と実践 教育相談体制とカウンセリング 課題フィールドワーク 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| | | |
| | | |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 実専 | 教授 | 松原 雅俊 <令和3年4月> |
| | | 社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント スクールリーダーシップの事例研究 行政研修の企画・運営 同僚性の構築に関する理論と実践 美術科の実践演習 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| 実専 | 准教授 | 藤原 寿幸 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 学級経営・学級指導の理論と実践 特別活動の理論と実践 教育相談体制とカウンセリング 課題フィールドワーク 教育実習指導の実践研究 実践研究のマネジメントⅠ 実践研究のマネジメントⅡ 学校研究のための教材研究 学校研究のためのカリキュラム開発 学校研究のための授業研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 学校課題解決研究A 学校課題解決研究B 学校課題解決研究Ⅰ 学校課題解決研究Ⅱ |
| | | 長沼 武志 <令和3年4月> |
| 実専 | 准教授 | 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅴ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 実み | 教授 | 木原 裕二 <令和3年4月> |
| | | 学級経営・学級指導の理論と実践 教育改革の現状と神奈川の教育事情 特別活動の理論と実践 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 教授 | 佐藤 到 <令和3年4月> |
| | | 学校マネジメントとリーダーシップ 教育改革の現状と神奈川の教育事情 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 教授 | 水木 尚充 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 教育改革の現状と神奈川の教育事情 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 准教授 | 星野 留美 <令和3年4月> |
| | | インクルーシブ教育の理論と課題 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 実み | 教授 | 木原 裕二 <令和3年4月> |
| | | 学級経営・学級指導の理論と実践 教育改革の現状と神奈川の教育事情 特別活動の理論と実践 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 教授 | 佐藤 到 <令和3年4月> |
| | | 学校マネジメントとリーダーシップ 教育改革の現状と神奈川の教育事情 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 教授 | 水木 尚充 <令和3年4月> |
| | | 子どもの理解と支援 教育改革の現状と神奈川の教育事情 スクールリーダーシップの事例研究 教育課題発見実地研究 教育課題解決実地研究 教職専門実地研究Ⅰ 教職専門実地研究Ⅱ 教職専門実地研究Ⅲ 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 授業改善実地研究 |
| 実み | 准教授 | |
| | | |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 実み | 准教授 | 松崎 博晃 <令和3年4月> |
| | | 学級経営・学級指導の理論と実践 教育相談体制とカウンセリング |
| 実み | 准教授 | 柳澤 尚利 <令和3年4月> |
| | | 授業デザインの理論と実践 教職キャリア開発の方法 |
| | | |
| | | |
| 兼任 | 教授 | 有元 典文 <令和3年4月> |
| | | 学びと授業づくりの心理学 |
| 兼任 | 教授 | 一柳 廣孝 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文学・テキスト) 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 片岡 浩二 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 河潟 俊吾 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 実み | 准教授 | 松崎 博晃 <令和3年4月> |
| | | 学級経営・学級指導の理論と実践 教育相談体制とカウンセリング |
| 実み | 准教授 | 柳澤 尚利 <令和3年4月> |
| | | 授業デザインの理論と実践 教職キャリア開発の方法 |
| 実み | 准教授 | 後藤 素代 <令和3年4月> |
| | | インクルーシブ教育の理論と課題 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 |
| 兼任 | 教授 | 有元 典文 <令和3年4月> |
| | | 学びと授業づくりの心理学 |
| 兼任 | 教授 | 一柳 廣孝 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅱ(文学・テキスト) 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 片岡 浩二 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 河潟 俊吾 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 坂本 智 <令和3年4月> |
| | | 技術の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 薩本(江藤) 弥生 <令和3年4月> |
| | | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 重松 克也 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ 社会系教科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 下城 一 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 白取 道博 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 鈴木 俊彰 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 田中 秀毅 <令和3年4月> |
| | | 英語科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 棚橋 信明 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 坂本 智 <令和3年4月> |
| | | 技術の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 薩本(江藤) 弥生 <令和3年4月> |
| | | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 重松 克也 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ 社会系教科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 教授 | 下城 一 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 白取 道博 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |
| 兼任 | 教授 | 鈴木 俊彰 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 田中 秀毅 <令和3年4月> |
| | | 英語科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 棚橋 信明 <令和3年4月> |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------------------|-----|-----------------------------------|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 多和田 雅保 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 I |
| 兼任 | 教授 | 西 栄二郎 ＜令和3年4月＞ |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 筆保 弘徳 ＜令和3年4月＞ |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 渡辺 雅仁 ＜令和3年4月＞ |
| | | 英語科の教材デザイン論と実践 英語科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 池口 明子 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 II |
| 兼任 | 准教授 | 小沢(森)奈々 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 I |
| 兼任 | 准教授 | 金光(村田)真理子 ＜令和3年4月＞ |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 北川 晃 ＜令和3年4月＞ |
| | | 技術の実践演習 |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------------------|-----|-----------------------------------|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 多和田 雅保 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 I |
| 兼任 | 教授 | 西 栄二郎 ＜令和3年4月＞ |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 筆保 弘徳 ＜令和3年4月＞ |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 教授 | 渡辺 雅仁 ＜令和3年4月＞ |
| | | 英語科の教材デザイン論と実践 英語科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 池口 明子 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 II |
| 兼任 | 准教授 | 小沢(森)奈々 ＜令和3年4月＞ |
| | | 社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論 I |
| 兼任 | 准教授 | 金光(村田)真理子 ＜令和3年4月＞ |
| | | 音楽の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 北川 晃 ＜令和3年4月＞ |
| | | 技術の実践演習 |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 准教授 | 倉田(矢ヶ部)薫子 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 佐桑 あずさ <令和3年4月> |
| | | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 鈴木 雅之 <令和3年4月> |
| | | 学びと授業づくりの心理学 |
| 兼任 | 准教授 | 高芝 麻子 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 津野 宏 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 古田 恵美子 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・言語) 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 古本 猛憲 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 |

| 専任・ 兼任・ 兼任 の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 准教授 | 倉田(矢ヶ部)薫子 <令和3年4月> |
| | | 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 佐桑 あずさ <令和3年4月> |
| | | 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 鈴木 雅之 <令和3年4月> |
| | | 学びと授業づくりの心理学 |
| 兼任 | 准教授 | 高芝 麻子 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 津野 宏 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 |
| 兼任 | 准教授 | 古田 恵美子 <令和3年4月> |
| | | 国語の授業デザイン論と教材デザイン論 国語の教材デザイン論と実践Ⅰ(文字・言語) 国語の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 古本 猛憲 <令和3年4月> |
| | | 人間社会と科学 理科の教材デザイン論と実践 |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 准教授 | 三戸(佐藤) 夏子 <令和3年4月> |
| | | 食教育の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 准教授 | 三戸(佐藤) 夏子 <令和3年4月> |
| | | 食教育の理論と実践 家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ 家庭科の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 准教授 | 河内 啓成 <令和3年4月> |
| | | 美術科の高度教育研究方法論 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ |
| 兼任 | 准教授 | 山崎(柴田) 朱音 <令和3年4月> |
| | | 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ 保健体育の高度教育研究方法論 |
| 兼任 | 講師 | 伊藤 裕来 <令和3年4月> |
| | | 音楽の高度教育研究方法論 教職専門実地研究Ⅳ |
| 兼任 | 講師 | 高瀬(植松) 祐子 <令和3年4月> |
| | | 教職専門実地研究Ⅳ 教職専門実地研究Ⅴ |
| 兼任 | 講師 | 島田 桂吾 <令和3年4月> |
| | | 学校のリーガルマインド |

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

| | | |
|-------|-----|------------|
| ・星野留美 | 准教授 | 退職(令和3年3月) |
| ・長沼武志 | 准教授 | 就任(令和3年4月) |
| ・後藤素代 | 准教授 | 就任(令和3年4月) |
| ・島田広 | 教授 | 昇任(令和3年4月) |
| ・鬼藤明仁 | 教授 | 昇任(令和3年4月) |
| ・尾島司郎 | 教授 | 昇任(令和3年4月) |

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

| 完成年度時における設置基準上の必要専任教員数 | 専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数 | 専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数 |
|------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 13 名 | 7 名 | 6 名 |

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

| 設置時の計画 | | | | | | 現在（報告時）の状況 | | | | | |
|------------------|--------|------------|-----|------|--------|------------------|--------|------------|-----|------|--------|
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計（A） | 助手（A'） | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計（B） | 助手（B'） |
| 34 | 14 | 0 | 0 | 48 | 0 | 37 | 12 | 0 | 0 | 49 | 0 |
| (37) | (12) | (0) | (0) | (49) | (0) | | | | | | |
| 研究者教員数 | 実務家教員数 | 講義のみ担当の教員数 | / | | | 研究者教員数 | 実務家教員数 | 講義のみ担当の教員数 | / | | |
| 38 | 10 | 28 | | | | 38 | 11 | 0 | | | |
| (38) | (11) | (0) | | | | | | | | | |
| 現在（報告時）の完成年度時の状況 | | | | | | 現在（報告時）の完成年度時の計画 | | | | | |
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計（C） | 助手（C'） | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計（D） | 助手（D'） |
| 37 | 12 | 0 | 0 | 49 | 0 | 37 | 12 | 0 | 0 | 49 | 0 |
| [3] | [Δ2] | [0] | [0] | [1] | [0] | [3] | [Δ2] | [0] | [0] | [1] | [0] |
| 研究者教員数 | 実務家教員数 | 講義のみ担当の教員数 | / | | | 研究者教員数 | 実務家教員数 | 講義のみ担当の教員数 | / | | |
| 38 | 11 | 0 | | | | 38 | 11 | 0 | | | |
| [0] | [1] | [0] | | | | [0] | [1] | [0] | | | |

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

| 年齢構成 | | |
|-----------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 定年規定の定める定年年齢（歳） | 報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 | 完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数 |
| 65 歳 | 0 名 | 0 名 |

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{49}{48} = \boxed{102.08} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{49} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 時期 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 就任辞退（未就任）の理由 | | |
|------------|-----|--------------------------|------|---------------|----------------------|-----------|-------------------------------|-----------|----|
| 1 | 准教授 | 星野留美 | R3.3 | 必修 | インクルーシブ教育の理論と課題 | ① | R3.3.31付け派遣元教育委員会の人事異動のため就任辞退 | | |
| | | | | 選択 | 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 | ① | | | |
| 合計 (D) | | | | 後任補充状況の集計 (E) | | | | | |
| 就任を辞退した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 1 | 人 | 必修 | 1 | 科目 | 必修 | 1 | 科目 | 必修 | 科目 |
| | | 選択 | 1 | 科目 | 選択 | 1 | 科目 | 選択 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | | 科目 | 自由 | 科目 |
| | | 計 | 2 | 科目 | 計 | 2 | 科目 | 計 | 0 |

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 時期 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 辞任等の理由 | | |
|---------|----|--------------------------|----|---------------|--------|-----------|--------|-----------|----|
| 該当なし | | | | | | | | | |
| 合計 (F) | | | | 後任補充状況の集計 (G) | | | | | |
| 辞任した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 1 | 人 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | | 科目 | 必修 | 科目 |
| | | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | | 科目 | 選択 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | | 科目 | 自由 | 科目 |
| | | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 |

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

| 合計 (D) + (F) | | | | 後任補充状況の集計 (E) + (G) | | | | | | |
|--------------|---|--------------------------|---|---------------------|----|-----------|----|-----------|---|----|
| 辞任等した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | | |
| 1 | 人 | 必修 | 1 | 科目 | 必修 | 1 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 |
| | | 選択 | 1 | 科目 | 選択 | 1 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 |
| | | 計 | 2 | 科目 | 計 | 2 | 科目 | 計 | 0 | 科目 |

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{48} = 2.08 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 辞任等の理由 | | | |
|---------|----|--------------------------|------------|-----------|--------|-----------|------|-----------|------|
| | | | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 後任補充状況の集計 | | | | | |
| 辞任した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 人 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 科目 | 必修 | 科目 | 必修 | 科目 |
| | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 科目 | 選択 | 科目 | 選択 | 科目 |
| | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 科目 | 自由 | 科目 | 自由 | 科目 |
| | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 科目 | 計 | 0 科目 | 計 | 0 科目 |

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専門分野が同じ教員を採用しており、学生の履修等への影響はない。教員の変更については、履修案内及び時間割にて周知している。

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

| 区 分 | 附 帯 事 項 等 | 履 行 状 況 | 今 後 の の 実 施 計 画 |
|-----|---|---------|--------------------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">該当なし</p> </div> | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院教育学研究科高度教職実践専攻>

(1) 設置計画変更事項等

| 設置時の計画 | 変更内容・状況、今後の見通しなど |
|---|--|
| ① 施設・設備 自習室について 学校マネジメントプログラム：共同自習室1室 教科教育・特別支援教育プログラム：教科等に応じた自習室12室 | ①学生の就学環境を改善するため、教科教育・特別支援教育プログラムの共同自習室（120㎡）を増設した。 |

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

| |
|---|
| ① 実施体制 a 委員会の設置状況 高度教職実践専攻運営委員会内にFD・評価部会を設置し、FD活動の計画・実施を担っている。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和2年度は、FD専門の部会を設けていなかったため、高度教職実践専攻運営委員会が担当し、18回開催した。16名の委員のうち、毎回8割以上の教員が出席した。 c 委員会の審議事項等 ●教育学研究科高度教職実践専攻運営委員会規則（抜粋） （審議事項） 第5条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。 (1) 授業の担当及び教員の資格審査に関する事項 (2) 教育課程の編成に関する事項 (3) 学生の入学、成績評価、修了認定その他学生の在学に関する事項及び学位の授与に関する事項 (4) 中期目標、中期計画及び年度計画に関する事項 (5) 前号に係る評価及び認証評価に関する事項 (6) 専攻の運営その他専攻長が必要と認める事項 ●教育学研究科高度教職実践専攻運営委員会の運営に関する内規（抜粋） （部会） 第7条 運営委員会規則7条の規定に基づき、運営委員会に次の各号に掲げる部会を置く。 (1) 教務部会 (2) 実習・附属部会 (3) 入試・広報部会 (4) FD・評価部会 (5) 渉外部会 |
|---|

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 院生を交えた授業に関する懇談会（年1回）
- ・ 教員相互の授業参観及び授業研究会（年2回）
- ・ 実習の相互参観
- ・ 新任教員研修会

b 実施方法

- ・ 院生を交えた授業に関する懇談会（年1回）
懇談会より前に院生に「修学に関するアンケート」を実施し、アンケート結果等を踏まえた形での、教職大学院専任教員及び教職大学院生による授業反省会を行う。
- ・ 教員相互の授業参観及び授業研究会（年2回）
自分自身が行った授業のリフレクションを行う。また、各自1回以上、他の教員が行う授業を参観しレポートを作成・提出する。提出されたレポートをFD担当者がまとめ、授業研究会当日に全員に配布し、それを元に協議を行う。
- ・ 実習の相互参観
他の教員が担当する実習指導の様子を参観しレポート作成する。提出されたレポートをFD担当者がまとめ、授業研究会において協議を行う。
- ・ 新任教員研修会
横浜国立大学及び高大接続・全学教育推進センターが主催し、新任教員を対象に、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、高度な学術研究と魅力ある授業を行うための教育開発・学修支援に取り組む姿勢、人権を尊重し高い倫理感を持って行動するための研修を行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 院生を交えた授業に関する懇談会（年1回）
令和3年2月24日に実施。専任教員全員参加。
- ・ 教員相互の授業参観及び授業研究会（例年2回）
例年は年2回であるが、令和2年度はコロナ禍により令和3年2月24日のみ実施した。
- ・ 実習の相互参観
各自相互参観を行い、令和3年2月24日に協議を行った。
- ・ 新任教員研修会
例年は4月1日に行っているが、令和2年度はコロナ禍により実施を見送った。
- ・ 教職大学院FD集会
令和3年2月17日と令和3年3月3日の2回実施し、改組後の教職大学院専任教員の9割程度（70名程度）が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生の学修に配慮した授業開講時期の設定や授業内容と横浜国立大学教員養成・育成スタンダードとの対応関係の見直しを行った。また、T・Tの実質的な効果を発揮するための十分な事前協議の時間の確保など、日常的な取組も継続する。更に、令和3年度もFD活動に計画的に取り組む予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

例年は年2回実施しているが、令和2年度はコロナ禍により令和3年2月24日の授業研究会前に1回実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業研究会及び院生を交えた授業に関する懇談会で教員と学生に周知。また、アンケート結果の概要は自己点検評価書にまとめ、公開している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

教育課程連携協議会として、横浜国立大学教職大学院諮問会議を設置している。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

令和2年度は8月26日と2月20日の2回開催した。

c 委員会の審議事項等

- (1) 養成する人材像に関する事。
- (2) 教育のあり方に関する事。
- (3) カリキュラムに関する事。
- (4) 入試及び広報に関する事。
- (5) 学位授与に関する事。
- (6) 自己点検・評価に関する事。
- (7) 教職大学院と教育委員会との連携に関する事。
- (8) その他諸課題に関する事。

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・学生募集要項案及び入試日程について
- ・各教育委員会の現職教員学生派遣計画について
- ・客員教授（みなし専任教員）の派遣について
- ・横浜国立大学教職大学院 成果報告会・学習達成度評価委員会について

- ・短期履修による修了予定者の修了判定について
- ・履修の手引きについて
- ・学校実習及び連携協力校について
- ・次年度の行事予定について
- ・教職大学院に対する要望について

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

ニーズの高い特別支援教育を担う人材の育成や、行政に関する見識を備えた人材の育成について、見直しを行っている。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・特別支援教育の人材育成については、教育委員会からの派遣制度の見直しも含め、令和5年度を目途に検討を行う。
- ・行政に関する科目については学校マネジメントプログラムのプログラム別選択科目に「学校のリーガルマインド」を追加した。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教員配置、設備、授業科目、教育委員会との連携等計画通りに履行しており、順調に推移している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年4月21日 公表

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、本学教職大学院ウェブサイトを通じて公表した。

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度中に一般財団法人教員養成評価機構から認証評価を受ける。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。